

**放送日** 令和4年11月2日(水)  
**担当者** 教育部理事 後藤 章夫

おはようございます。教育部理事の後藤章夫です。

私は、昨年の3月まで30年以上、教員として子どもたちと接してきました。そして、現在、北広島市内の学校には教え子が2名教員として働いております。月日の流れのはやさに驚くとともに、子どもたちの成長と活躍に大きな喜びを感じているところです。

みなさんは小さな頃、どんな夢がありましたか？私は自分の家の近くにトラック運転手の方がいて、それがとてもかっこよく思え、将来、自分のトラックを持つことを夢見ておりました。その後、成長とともに夢は変化し、中学生の時に大変お世話になった担任にあこがれ、教員のみちに進むことを決意しました。当時、迷惑をかけることが多かったのですが、決して見放すことなく、親身に接して下さった担任の姿に心を打たれた結果でした。自分のことを振り返りましても、環境や経験によって、将来を大きく左右すると実感しております。

今、北広島市にはエスコンフィールド HOKKAIDO が建設中です。その過程を子どもたちは日々見つめています。野球好きの子はもちろんですが、そうではない子も、自分の住むまちに世界中から注目される球場ができ、周辺の整備がどんどん進んでいく様子を見て、期待が大きく膨らむと思います。

私は自分の住むまちが大好きで、夢や希望をいただき、目を輝かせて生活する子どもたちが増えることを心より願っております。その実現のために、教育行政に携わる一員として、子どもたちにとって恵まれた環境整備、そして充実した経験ができるよう、全力で頑張っていきたいと思っております。

**放送日** 令和4年11月9日（水）  
**担当者** 消防長 三上 勤也

おはようございます。消防長の三上勤也です。

9月30日早朝に発生した住宅火災では、お二人の方がお亡くなりになってしまいましたが、近年、自然災害が激甚化、頻発化している中で、有事の際には、これまで培ってきた本市の消防力を結集し、市民の生命、健康、財産を守らなければならないと考えています。

ただし、市民を危険から遠ざけるために、職員を危険に向かわせることとなりますので、活動の判断基準に「二次災害を発生させない」ということが重要であると考えています。現場は常に危険と隣り合わせですので、誤った命令により職員が怪我をしたり、命を落とすということがあってはなりません。本市では、昭和56年に発生した水害で、消防団員が殉職するという痛ましい事故がありました。また、活動中に発生した想定外の事態から、職員が命を落とす事例も全国では少なくありません。

本年5月に市内で発生した住宅火災では、火が燃え盛っている建物内での消火活動中に、異変を捉えた指揮隊長が、大きな声で退避を指示した直後にフラッシュオーバーによる爆発が発生しました。この判断で職員が怪我をすることなく消火活動を継続し、鎮火できたということがありました。このように命を落とすかもしれない現場で、日々戦っている職員みなさんに感謝と敬意を表します。

東日本大震災で多くの被害があった、岩手県釜石市内に建立された津波記憶石には、「100回逃げて、100回来なくても、101回目も必ず逃げて」という警戒心を絶やさないと重要性を訴えたメッセージが刻まれています。

ときに自然は人間の想定をはるかに超えてきます。「天災は忘れた頃にやってくる」と言いますが、それは今日かも、明日かもしれません。

防災対策は、いつ成果が現れるのか誰にもわかりません。高額な資機材を準備しても活用しないかもしれません。消防の職員は、そのようなことを承知の上で、未来の命を救うための訓練に日々励んでいます。その努力に消防の存在意義があり、二次災害を防ぐ重要な役割があると思っています。

**放送日** 令和4年11月10日(木)  
**担当者** 消防課 技師 平原 東司

おはようございます。消防課の平原東司です。私は約3か月間入校していた消防学校での初任教育についてスピーチをしていきたいと思えます。

消防職員は、勤務し始めてすぐに現場に出て活動するということできません。人の命にかかわる仕事ですので訓練で技術、座学などで知識を身に付けなければいけません。そのために学校で現場活動で必要になる基礎を徹底的に教わります。

市民の生命や財産を守ることが消防士としての使命です。そのためには個人の知識・技術のほかに仲間との連携・協調性が不可欠になります。

3か月寝食を共にする中で規律や協調性といった面でも成長することができたと感じています。厳しい訓練や生活の中で、仲間の存在が励みとなり、充実した日々を過ごすことができました。

大変なこともあった3か月間でしたが人とのつながりを感じ全力で取り組むことができた今までで一番濃い3か月間だったと感じています。

この経験を活かし素晴らしい北広島のまちや市民を守っていけるような消防士になるために尽力していきたいと思えます。

**放送日** 令和4年11月14日(月)  
**担当者** 消防署大曲出張所 技師 松本 勲武

おはようございます。消防署大曲出張所の松本勲武です。  
消防職員として採用されてから約7か月が経過しました。

この7か月間初めてのことばかりで焦りや不安はもちろんありますが、先輩方の熱心な指導や仲間と切磋琢磨していく中で自分自身も少しずつではありますが成長できていると実感し、とても充実している毎日を送っています。

これから私が消防職員になって立てた目標についてお話ししたいと思います。

1つ目は「気付ける人間になる」ということです。

現場は想定外のことがたくさん起きます。それに対しいち早く気が付き対処できるかが市民や仲間の安全に繋がると考えます。普段からたくさんの方に気を配り、気付きの精度を高められたらと思います。

2つ目は「効率よく実行する」ということです。

ただできるだけでは意味がありません。消防職員が求められるものは「迅速性」です。どうやったら早く要領よくできるかを常に考え日々自分自身を高められたらと思います。

今年度はこの2点の目標を達成し次のステップへと進めたいと思います。

放送日 令和4年11月30日(水)

担当者 消防本部次長 小室 秀治

おはようございます。消防本部次長の小室です。

今日は最近の火災の傾向についてお話しをさせていただきます。

近年は住宅用火災警報器などの普及によって火災の発生件数が減少し、火災による損害額も平成18年からは右肩下がり減少しています。

ただし、住宅火災だけを見てみた場合、1件の火災に対する損害額は近年増加傾向にあります。この大きな要因としては、消火器などの消火用具を用意している家庭が減ってきていることが挙げられています。ぼや程度の段階で火災を発見しても効果的な初期消火が実施されないことで火災が拡大するケースが増えているからです。一般の家庭においては消火器などを使用して初期消火を実施した場合、消火に成功するケースは80%以上にのぼると言われています。

個人の住宅には設置義務のない消火器ですが、コンパクトで扱いやすい家庭用消火器も開発されています。大切な命や財産を自ら守るアイテムとして「住宅用火災警報器」の設置と合わせて準備することをお勧めします。

これから本格的な冬を迎え暖房器具など火を使う機会も多くなります。火の元には十分注意をお願いします。